

岐阜農林事務所の普及活動状況

平成24年9月30日現在

今月の重点活動

■新規就農者等 岐阜地域農業担い手情報交換会開催

岐阜地域の農業担い手育成確保を目的に農業担い手情報交換会を開催し、新規就農者のほか市町、農協等関係機関や指導農業士等73名が参加した。「やる気を出させる農業経営」と題した講演、新規就農者等3名の事例発表のほか、新規就農者(5名)、農業研修生(19名)が今後の抱負を発表した。

引き続き関係機関が連携して、農業担い手確保に向けて支援を行う。



【抱負を語る研修生】

活力ある新産地づくり

■アスパラガス 岐阜産アスパラガスを地元飲食店に提供！

国体開催に合わせて、羽島市アスパラガス部会では、岐阜市周辺の飲食店へ、岐阜県産アスパラガスをもっと活用してもらうため、PRをかねた提供を行った。

アスパラガスも終盤を迎える頃だが、地元でとれた新鮮なアスパラガスを使い、創意工夫を凝らしたアスパラメニューを提供した。

地元の生産者と飲食店等の皆さんのつながりにより、岐阜県産アスパラガスのおいしさのPRに努めた。



【飲食店に提供したアスパラ】

売れる農畜産物づくり

■水稻種子 合格種子生産に向けて圃場内をチェック

9/18に第2回目の異形株等の抜き取り作業を実施しました。市内3地区に普及指導員が分かれ、市、JA、米麦改良協会も参加して行った。雨が降る中、生産者と全種子圃場に入り異形株が混じっていないか、生育状況はどうか等をチェックした。去年は出穂期に台風の影響があったが、今年はこれまでのところ順調に生育している。



【生育状況確認】

■さといも さといも省力栽培技術の検討

JAぎふでは、さといもを有力な転作作物として位置づけ、品種を八名丸に統一して産地化に取り組んでいる。

さといもは、収穫後の貯蔵作業の労力負担が大きく肥料代が高いことが産地化の阻害要因というアンケート結果だった。

これらの課題を整理して次年度は産地ブランド化戦略を関係機関と連携し、組み立てていく予定。



【さといも展示ほ】

■かき かきの出荷スタート！

岐阜市かき共販振興会では9月12日に「西村早生」の目揃会を行い、岐阜地域のトップを切って18日から出荷がはじまった。岐阜市では、「西村早生」から新品种への切り替えを進めており、今年で「西村早生」の出荷は終了する。また、引き続いて26日に「早秋」の目揃会も行われ、本格的なかきの出荷も始まる。

他の産地でも9月29日に丸糸会振興会、瑞穂市柿振興会で「早秋」の目揃い会が行われ、10月上旬から出荷が始まる。かきの果実肥大は平年並みだが着色が3～5日程度遅れている状況。農業普及課では肥大データを基に、気象状況と肥大の関係から階級予測を行い、販売会議等で今後の販売の情報提供を進めている。



【柿目揃い会】

■花き 国体花飾り用プランター納品完了！

・国体花飾り用プランター約2千のうち約千を岐阜管内生産者7名が生産。農業普及課では、7月から週1回の生育確認を行い、確実な納品に向けて農業経営課等と連携して、栽培管理指導を行った。一部で生育不況が見られたが、他の生産者でカバーした。9月25日～27日にぎふメモリアルセンター及び周辺道路に設置され、国体に花を添える。



【花飾りの様子】

多様な担い手の育成・確保

■新規就農者 いちご新規就農予定者就農準備説明会の開催

9月25日に全農・JAぎふ・岐阜農林事務所合同で、現在、全農いちごインキュベート施設で研修を行っている研修生4名を対象に就農準備説明会を開催した。

国・県補助事業、青年農業給付金、就農支援資金等の就農支援施策の説明を行い、来年6月に就農するまでのスケジュールについて調整を行った。今後は、農地確保・栽培施設規模等の決定を行い、今年度中に新規就農計画が認定されるよう、計画策定支援を行っていく。



【説明会風景】

県民みんなで育む農業・農村

■えだまめ えだまめ食農教育指導実施中！

・岐阜市内小学3年生の社会科授業の一環として、えだまめ栽培について指導をした。9/5 長良西小学校 (150名)、9/12 合渡小学校 (75名)、9/14 明郷小学校 (70名)。今後も社会科副読本のえだまめ頁の増加から対応増加が見込まれる。

・9/19には、岐阜女子短期大学の学生との食農教育交流会が行われ、農業への理解増進を深めた。



社会科授業の様子